

今後の県立高校に関する地域検討会議（第1回）記録要旨【宮古ブロック】

平成27年6月23日（火）

シートピアなあと 2階研修ホール

【山口 宮古市副市長】

- ・国では、まち・ひと・しごと創生総合戦略を示し、人口減少と地域経済縮小の克服に向けた取り組みを始めている。県では、その取り組みと再編計画をどのようにリンクさせていくつもりなのか伺いたい。
- ・今の若い職員は、主体的に判断し問題解決を図っていく能力、あるいはコミュニケーション能力、社会の変化に柔軟に対応していく能力が不足している。人材育成の視点から、高校教育できちんと指導していただきたい。
- ・宮古高校は進学を前提とした普通高校として充実を図っていただきたい。宮古水産高校は県内で唯一の水産高校であり、固有名詞として残してほしい。水産県岩手として、また、これからの水産業の復興等を踏まえると必要な高校である。近くには宮古海上技術短期大学校があり、岩手大学でも平成25年から釜石市の平田地区に三陸水産研究センターを設置し水産研究に力を入れている。こうした水産関係機関との連携を図る意味でも必要とされる高校である。
- ・宮古商業高校、宮古工業高校もこれからの街づくりや地域産業の振興にとってなくてはならない高校である。これらの存続についても御配慮をお願いしたい。

【佐藤 山田町長】

- ・山田町の中学校からどれくらいの生徒がどこの高校に進学しているのか伺いたい。
- ・山田高校に特長のある学科があれば、魅力ある学校に脱皮できるのではないかと感じている。
- ・地元の企業の方の話によると、最近の高校生は基礎的な学力が身に付いていないと話していた。再編と直接関係はないが、懸念しているところである。

【中居 岩泉町副町長】

- ・岩泉町は広大な面積を有している。かつて下閉伊北部には岩泉高校小川校や田野畑校があったが、現在は岩泉高校1校となり大変残念に思っている。改訂した基本的方向では、「広大な県土という地理的な条件や地域の実情等を考慮し、慎重に検討」とある。この文言から推察すると、岩泉高校は存続できるのではないかと感じている。
- ・現在は、ほとんどの中学生が進学するので、教育機会の保障の観点から都市部であろうが、ハンデのある地域であろうが、同等に対応していくという哲学が必要である。
- ・岩泉町では、岩泉高校を支援するために年間約4千万円の予算を使っている。小規模校の魅力を発揮できるように町民全体で取り組んでいることについても御配慮願いたい。

【生駒 山田漁業協同組合連合会代表理事長】

- ・山田高校の入学予想者数は平成32年には40人を切る見込みが示されている。山田中学校の卒業者数も年々少なくなっており残念であるが、1学年1学級となっても山田高校の存続をお願いしたい。
- ・漁業従事者の担い手不足も深刻となっているため、山田高校に水産に関する学科を設置し特色ある学校にしていただきたい。

（次頁に続く）

【杉山 岩泉農業振興公社代表】

- ・都会の人口が多いのは地方から流れているだけであって、地方の人口が減っていく中で日本人の食糧を生産しているのは地方であることを忘れてはいけない。
- ・宮古地域の若い人達が減っていくことはわかっていることである。人口の自然増は期待できないが社会増を目指す政策が国や県で必要なのではないか。このような中で、地域の高校がなくなれば、さらに人口減少に拍車がかかる。高校までは地域で学び郷土愛を育てる教育をして、いずれは地域に戻れるような環境をつくっていくことが大切であると感じている。

【吉水 宮古商工会議所専務理事】

- ・東日本大震災により次期高校再編計画を中断し、あらためて検討を再開したことに対し感謝申し上げます。しかし、被災地はまだ復興途中であり、定住も確定していない中で再編を進めるとなると、地域住民の不安をかき立てることになる。このような状況から、宮古地区の現在の高校を維持していただきたい。
- ・宮古地区の高校は普通高校、工業、商業、水産高校がありバランスがとれている。これから高校に進学する中学生に不安を持たせない意味においても現在の高校を残していただきたい。

【戸田 宮古市PTA連合会母親委員】

- ・高校に通わせる親としては、通学時間が気になる場所である。宮古地区は高校までの通学時間が多くかかる地域がある。改訂した今後の高等学校教育の基本的方向では、学びの機会の保障も強く訴えているので、高校再編については慎重に進めてほしい。

【小林 山田町立山田中学校PTA会長】

- ・山田中学校は、宮古地区で生徒数が最も多い学校である。その中で、昨年の山田中学校卒業生 128 人のうち、山田高校には 50 人程度入学した。宮古市内の高校にも多くの生徒が入学している状況である。現在、宮古方面に通学している生徒は、JR山田線が復旧していないため、県北バスを利用している。バスは運行時間が限られているため、部活動をするためには親の送り迎えが必要となっており、親の負担が増えている。
- ・山田高校の入学者は、平成 33 年に 37 人と予想されている。現在は震災の影響で内陸部に転居している方々もおり、これからの復興状況によっては山田町に戻ってくることも考えられる。そういったことも考慮して再編計画を検討してほしい。

【佐々木 岩泉町PTA連合会会長】

- ・岩泉高校は、町にただ一つの高校であり、広大な面積による通学事情のことを考慮すると地域になくはならない高校であることはすでに皆さん御承知のことと思っている。是非、存続の方向でお願いしたい。
- ・岩泉町でも、小規模ながら特色ある活動が行えるよう岩泉高校に対して、様々な支援を行っていることも考慮してほしい。

【佐藤 田野畑村立田野畑中学校PTA会長】

- ・田野畑中学校からの高校進学者は宮古方面と久慈方面が約半々となっている。優秀な生徒は盛岡の高校に進学している。他の地域の中学校でも同じような状況ではないか。例えば、宮古高校に特別進学コース等を設置し、他の地域の高校に進学しなくても宮古高校から難関大学等に進学できるような学科等を整備することも必要と考えている。他の地区の高校に進学させるとなると親の経済的

(次頁に続く)

負担が大きくなる。地元の高校でも優秀な生徒を育てるような体制づくりを進めてほしい。

【伊藤 宮古市教育委員会教育長】

- ・宮古市内の小中学校は現在 32 校となっている。平成 26 年度には川井地区の小学校 3 校、平成 25 年度は重茂地区の小学校を 2 校閉校した。今年度は新里地区の小学校 4 校を閉校する予定となっている。統合した学校の親は、学校規模が大きくなり学校が活性化され良かったという意見を述べており、統合が受け入れられていると感じている。
- ・東日本大震災により宮古工業高校が被災したため、宮古工業高校の生徒は宮古商業高校や宮古水産高校で授業を受けた。
その時の生徒は、規模が大きくなることにより部活動や生徒活動、ボランティア活動等、様々な場面でプラスになったと話していた。このようなことを踏まえ、高校はある程度の学校規模の中で、人間関係を磨いていくことが必要と考えている。
- ・宮古地区は、現在、バランスのとれた高校配置となっているが、今後の生徒減少を考慮すると特に専門高校については、ある程度の学校規模を維持するため、統合することも含めて検討していくことも必要と考えている。

【佐々木 山田町教育委員会教育長】

- ・山田町の中学校から宮古市内の高校に約 3 分の 2 の生徒が進学している現状を踏まえると、より広域で考えていく必要があると感じている。山田高校については、小規模校の在り方ということで検討していく必要があるのではないか。今後、2 学級維持が難しくなった場合でも 1 学級校としての在り方を柔軟に検討していくことが必要である。
- ・被災地としての配慮、教育の機会の保障等は行政に責任がある。宮古地区として広域で考え、それぞれの地域実情に応じた高校の在り方について議論が深まっていくことを期待している。

【三上 岩泉町教育委員会教育長】

- ・宮古地区は通学事情等、県の中央部とは様々な面で違いがある。生徒減少に合わせ単純に統合を進めるとなると存続の反対意見しか出ないことが予想される。地域が学校存続のために様々な支援を行っていることを十分考慮してほしい。
- ・今後、統合を進めていく場合、通学に対する支援策等、地域が納得するような具体的な案を示しながら高校再編の検討を進めることが必要と感じている。

【巖岩 田野畑村教育委員会教育長】

- ・田野畑村には岩泉高校田野畑校があったが、岩泉高校に統合となり、現在宮古下閉伊地区には岩泉高校 1 校だけとなっている。田野畑中学校からは約 3 分の 1 の生徒が、岩泉高校に進学しており、当地区としてはなくてはならない高校である。岩泉高校については、今後、生徒数が減ったとしても存続をお願いしたい。
- ・改訂した今後の高等学校教育の基本的方向では、「専門学科から高等教育機関への入学卒の拡大等に向けた取り組みも進めます。」とある。このような取り組みを進めることにより、専門高校に入学した生徒の進学意欲が高まってくると思うのでよろしくをお願いしたい。また、小規模校における学習内容の質の確保について、教員の相互派遣等についても触れられているので期待している。

【佐々木 宮古市立第一中学校長】

- ・東日本大震災の時に中学 3 年生だった生徒は現在、成人となっている。地域の復興のため地域に貢

(次頁に続く)

献したいと言って中学校を卒業していった生徒たちが、大人になり地域に貢献している姿を見てたのもしさを感じている。

- ・宮古地区には普通高校や専門高校がバランス良く配置されており、中学生にとっては進路先が保障されていると感じている。今後も、学校の形態が変わるかもしれないが、中学生の進路希望に応えられる学科を維持していただきたい。
- ・当地区からは多くの生徒が他地区に流出している。この傾向は今後も続くものと予想される。他地区への流出を抑えるよう中学校としても努力していくが、再編により生徒が希望する学科がなくなることにより、他地区への流出がさらに進むと思うので、そのようにならないよう工夫をお願いしたい。

【 県教委 】

- ・まち・ひと・しごと創生総合戦略と高校再編の関係であるが、総合戦略は県では平成 27 年 9 月を目途に策定を進めているところであるが、再編計画はそれまで示すことはできない状況にある。そのため、総合戦略に教育委員会がどのように関わっているかという点、改訂した今後の高等学校教育の基本的方向にある「いわての復興・発展を支え、ふるさとを守る人財を本県の高校教育で育成していく」という人財育成の視点を総合戦略に入れ検討を進めているところである。
- ・山田中学校からの進学状況について、平成 26 年度は卒業生 160 人のうち、山田高校に 49 人、宮古高校に 35 人、宮古商業高校に 24 人、宮古水産高校に 15 人、宮古工業高校に 11 人、岩泉高校に 3 人、宮古高校定時制 3 人、その他は私立高校への進学となっている。
- ・特色ある学科の設置については、今後少子化が進んでいく中で、学科を単純に増やすことができないことを御理解いただきたい。
- ・3 学級以下の小規模校の在り方については、地理的な条件や教育機会の保障という観点を十分考慮した上で検討を進めていきたいと考えている。現在、魅力ある学校づくりに向け、各市町村から主体的に支援をいただいていることについては感謝申し上げたい。市町村との連携協力については、県が強制的に財政的な支援を求めるものではなく、お互いが知恵を出し合っていくという関係をつくることを考えている。小規模校のデメリットをいかに少なくしていくかといったことを各市町村と共有しながら、様々な方策を議論し可能なところから連携協力していきたいと考えている。
- ・宮古地区はバランスのとれた学校配置となっているという御意見をいただいたところであるが、当地区では多くの高校が定員を満たしていない状況にもある。こういった状況も踏まえ、どのような学校・学科の配置が良いのか、御意見を伺いたい。
- ・教員の相互派遣について、現状では芸術、外国語関係の教員が複数の高校を兼務している例はあるところ。兼務の場合、部活動指導や学級担任を持つことができない等の課題があることから、その拡大については十分検討しながら対応していきたい。
- ・学びの環境の整備という点で、ある程度の学校規模は必要であるとの御意見をいただいた。これまで釜石商工高校や大船渡東高校のように、農業、工業、商業の専門高校を統合し総合的な専門高校として整備している例もあるところ。総合的な専門高校は、他学科の科目を履修できることで進路選択の幅が広がることや単独の専門高校に比べ男女の偏りが少なく生徒指導面でも効果があると伺っている。一方、学科毎に行事が異なり学校一丸となって取り組みにくいという課題も指摘されており、このようなことを踏まえ、十分意見を伺いながら検討していきたい。

(次頁に続く)

【中居 岩泉町副町長】

- ・平成 27 年度の岩泉高校の入学者は昨年に比べ増加した。これは、町民一丸となって岩泉高校存続に向けて取り組んだ結果であると認識している。このような想いを十分考慮していただき、小規模校としての課題はあるが、県と地域が連携協力し岩泉高校の存続に向けて取り組んでいくことを要望したい。

【伊藤 宮古市教育委員会教育長】

- ・大船渡東高校、釜石商工高校等の総合的な専門高校のメリット及びデメリットを伺いたい。

【 県教委 】

- ・総合的な専門高校のメリットは、専門性を確保しながら進路希望に応じて関連分野を履修することで進路選択の幅が広がっていること、単独の専門高校に見られる男女の偏りが少なく落ち着いた学校生活を送っていること等がある。課題としては、学科毎の行事や資格試験等の日程が異なり学校として一丸となって取り組みにくいという点が指摘されている。

【佐々木 山田町教育委員会教育長】

- ・全国や他の地域において、同じ校名で異なる校舎を利用し学習活動を行っている例はあるのか伺いたい。
- ・中学生は部活動で高校を選ぶ傾向がある。高校での部活動の設置、在り方について県ではどのように考えているか伺いたい。

【 県教委 】

- ・同じ校名で異なる校舎を利用し学習活動を行っている例ということであるが、さきほどの説明の中で検討するとした校舎制がそれにあたる。現在、県内ではこのような校舎制は実施していないが、例えば統合により専門高校の実習等を統合前の校舎を利用して行うこと等を想定しているものである。

【 県教委 】

- ・高校の部の設置について県の考えはどの程度生かされるかという点について、基本的に各高校の部の設置は地域の実情を考慮して校長が判断するものである。強化策となると各競技団体や体育協会の考え方もあるので総合的に判断することになる。

【山口 宮古市副市長】

- ・現在、各市町村では、それぞれ定住化対策等に取り組んでいる。このような中、宮古市の就職状況を調べたところ、卒業生に対する就職者数は減少しているのに対し、県内管内の就職は増加傾向にあることがわかった。地域産業を支える人材育成という点では専門高校の果たす役割は大きいものがある。高校再編を進めるにあたってはこのような点を十分配慮していただきたい。

【佐藤 山田町長】

- ・釜石商工高校のデメリットについて、もう少し詳しく説明していただきたい。

【 県教委 】

- ・商業高校と工業高校はそもそも学校文化が異なるため、統合当初は、お互いが主張しあったりしてうまくいかないということはある。時間割や資格試験等の日程も異なり一つの学校としてまとまっていくなかには、校長のリーダーシップのもと、ある程度の時間をかけて解決していくことが必要である。

(次頁に続く)

【 県教委 】

- ・組み合わせが悪いということではなく、お互いが理解しあうまである程度の時間はかかるということである。方向性としてはうまくいっていると感じている。

【三上 岩泉町教育委員会教育長】

- ・中学校では特別な支援を要する生徒の進路について、頭を痛めている。県立高校の再編と併せて、このような生徒が、地元の高校に通える仕組みが作れるかどうか検討していただきたい。

【 県教委 】

- ・特別支援学校の関係については、高校再編の検討と別な形での検討が必要と考えている。特別支援教育担当にも伝えたくて、協議ができるよう検討してまいりたい。

【 県教委 】

- ・特別な支援を必要とする生徒が、高校への進学を選択肢として考えた場合、高校入試があるため不利になるのではないかとすることを心配するかもしれないが、障害があることが高校入試に不利になることはない。このことをもっと周知し生徒保護者の不安を払しょくしていく努力は必要と感じている。ただし、障害によっては特別支援学校を選択することになるので、その際は、特別支援学校に相談していただきたい。

【伊藤 宮古市教育委員会教育長】

- ・宮古高校には定時制があり、地域の生徒を受け入れきめ細かな指導をしていただいている。今後の再編計画の中で、宮古地区に多部制（昼間部）の設置の可能性があるのか。

【 県教委 】

- ・当地区での多部制の必要性については、皆様から御意見を伺いながら、昼間部となると（全日制で校舎を使っている）場所の確保も含めて検討してまいりたい。